

科学研究費基盤研究(C)  
「東アジアの高齢者就労の比較社会学」

代表研究者：瀬地山角

もともと東アジアの諸社会（日本、韓国、台湾、北朝鮮、中国）におけるジェンダーの比較社会学が私の専門で、おもに既婚女性の労働パターンが同じ資本主義の日韓台で大きく異なり、逆に韓国と北朝鮮、台湾と中国の間に共通の現象を見いだすことができるというのが、私の議論の出発点である。

そこから同様の構図が高齢者の労働パターンに関しても看取できると考え、調査を始めたのが2018年からスタートした科研である。まず台湾に行き、台湾大学で資料収集と講演／討論をし、高齢者就労の不活発な状況が、どのように理解・解釈されているかを探ることから始めた。

さらに台湾での資料収集を元に、中国で資料収集を行う予定でいたところ、比較家族史学会が年次大会をはじめて北京で開くことになり、その際に発表・討論の機会を得た。チャイニーズの社会においては小さな子どもを抱えた女性の就業が極めて活発なのに対して、50代以降の高齢者の就労が著しく低調であることを中国の文献でも跡づけることができ、個人的には大きな成果となった。中国社会科学院での発表・討論では中国側の研究者は高齢者の就労比率が低いことに対して、「危険」とか「適切な職がない」といった理由を挙げた。これは台湾とほぼ同じ反応で、社会体制を越えたチャイニーズの社会の特徴であることが浮かび上がる。日本の高齢者就労の業種の広がりと比較すると、「適切な職がない」という理由付けで中国の現象を説明できるとは思えず、重要な論点だと考える。

山東大学ではジェンダーの問題により重点をおいて講演した。拙著の中国語版出版の企画が山東大学の審査を通ったとのことで、翻訳を担当する先生などと打ち合わせを行い、問題点や方向性を整理した。科研としては重要な成果となるはずであるが、最近の中国政府の動向から、用語にも細かいチェックが入ることが予想され、慎重な作業が必要になると思われる。

発表原稿が2万3千字程度で発表媒体の文字数を大きく超過したため、現在はそれを3分の2から2分の1程度に減らした上で、中国社会科学院での報告を中国語に翻訳する作業を進めており、比較家族史学会の年報とあわせて中日両言語でペーパーにする予定である。